

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：科学技術を考える - 人文学の視点から ILAS Seminar :Thinking Science and Technology - Perspective from Humanities			担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 教授 瀬戸口 明久		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	8(8)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	人文科学研究所本館セミナー室 3(本部構内)		使用言語	日本語	
キーワード	科学技術史 / 機械と人間						
[授業の概要・目的]							
<p>現代社会では、身の回りのあらゆるところに機械が浸透している。それは発電所や鉄道のような巨大な技術システムから、家電製品やスマートフォンのような身近な技術まで広範囲に及ぶ。最近では人工知能の発達が人間を追い越してしまうシンギュラリティーの到来が恐れられている。</p> <p>だが機械が人間を変えてしまうのではないかという恐怖は、技術の歴史を通して何度も経験されてきた。このセミナーでは、科学技術の歴史から、機械と人間の関係について考えてみたい。</p> <p>読んでいくテキストは、ルイス・マンフォード『技術と文明』（1934年）である。マンフォードは20世紀を代表する技術史家で、技術文明のなかでの人間のあり方を問う著作を多く発表している。『技術と文明』は、西洋文明のなかでの千年にわたる技術史を俯瞰して現在を位置づけようとした著作である。</p>							
[到達目標]							
<ul style="list-style-type: none"> - 一冊のテキストを読みきって理解する。 - 人文学的な文章を読み解いて、論理的に表現できるようになる。 							
[授業計画と内容]							
<p>第1回 ガイダンス セミナーの概要、進め方について説明する。</p> <p>第2回～第14回 『技術と文明』を1章ずつ読み進めていく。 参加者による内容紹介、内容の確認の議論という形式で進めていく。目次は以下の通り。</p> <p>第1章 文化的準備 第2章 機械化の推進者 第3章 原技術期 第4章 旧技術期 第5章 新技術期 第6章 補整と転換 第7章 機械の同化 第8章 正しい方向へ</p> <p>第15回 フィードバック</p>							
ILASセミナー：科学技術を考える - 人文学の視点から(2)へ続く							

ILASセミナー：科学技術を考える - 人文学の視点から(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

- 出席と授業中の報告（60点）
- 課題レポート（40点）

[教科書]

授業中に指示する

[授業外学修（予習・復習）等]

- 参加者はテキストを読んてくる。
- 発表者はレジュメを作成する。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]